

# 目次

科学の現代的性格——序にかえて——	一
I 平和の創造と科学者の任務	七
原子力と人類の将来	元
——ラッセル・アインシュタイン声明によせて——	元
パウエル博士との往復書簡	元
ジョリオ・キュリーの死	元
原子科学者とウイーン宣言	四
バグウォットシュ会議の歴史	四
キッツビューエルの会議	四
ウイーンの祝典	五
科学時代と人類	五
科学における国際協力——「平和の論理」をもとめて——	七

放射能の下で科学者は何をなすべきか…………… 九四

ウイーン宣言の精神…………… 九四

「平和の論理」の発見へ…………… 九七

科学者京都会議が開かれるまで…………… 一〇一

ウイーン宣言…………… 一〇八

一 戦争廃絶の必要性…………… 一〇八

二 軍備競争を終結させるための必要条件…………… 一〇九

三 戦争の意味するもの…………… 一一一

四 爆弾実験の害…………… 一二三

五 科学と国際協力…………… 一二四

六 平和への奉仕における技術…………… 一二六

七 科学者の責任…………… 一二八

科学者京都会議声明…………… 一三〇

## II 科学を創造するために——日本学術会議とともに——…………… 一三七

原子力と取組む——第十三回総会から——…………… 一三九

日本における原子力研究の問題…………… 一三六

フェスティナ・レント	一四〇
動力炉の輸入と学界の態度	一四四
科学技術会議の設置と原子力の安全性をめぐる	一四八
——第二十六回総会から——	
一 科学技術会議の設置をめぐる	一四九
二 原子炉の安全性について	一五三
原子力協定への危惧	一五九
原子炉安全審査委員を何故やめたか	一六九
——コールドホール改良型原子炉の安全性をめぐる——	
原子核研究将来計画について	一八三
基礎科学振興の五原則	一八五
——第三十三回総会から——	
科学技術基本法より科学研究基本法を	一九八
正気の科学技術政策を	二〇三
——第三十六回総会から——	
素粒子論の創造についての対話	二〇九
量子力学の解釈をめぐる	二二二
解釈論争の新しい意味	二二二

コペンハーゲン解釈	三三三
ブリュッセル会議	三二七
波束の収縮は主観の作用ではない	三二八
コペンハーゲンの霧	三三〇
量子力学と唯物弁証法	三三四
量子力学の次にくるもの	三三七
新素粒子観対話	三三三
一 素粒子は物質の窮極ではない	三三三
二 新素粒子観	三三四
素粒子論三十年(座談会)	三三六
一九三〇年ごろ	三三六
中間子論をめぐって	三三六
繰込み理論と二中間子論	三三三
新粒子の分析	三三六
現在の問題	三三六
素粒子論の今後	三三七
科学者の社会的任務	三三七

IV 原子科学のふるさとを訪ねて——一九五四年——……………二八三

デンマークとボーア博士……………二八五

アンデルセンの国を旅して……………二九〇

ボーア先生の周辺……………二九六

ニールス・ボーア……………三〇三

L・ローゼンフェルド……………三〇三

V ソ連・中国の旅——一九五六年——……………三三一

ソ連の原子核物理学……………三三三

シンクロファゾトロンを見る……………三四八

北京日記——一九五六年——……………三五三

あとがき